

～～第8482回～～

西吾妻山

～H30. 7. 21-23～

広い意味で“吾妻山エリア”に入る一切経山と西吾妻山の二座を登る。下界は猛暑にみまわれたが、2000m級の山行はなかなか快適な2泊3日であった。1日目、連日猛暑が続く蒸し暑い朝 5:00、新静岡セノバやっぺい前をマイクロバスで出発。東北道へ入ると、渋滞のため一旦一般道へ降りる。那須高原インターから再び高速道に入り、吾妻スカイラインを走って浄土平駐車場に13:00に到着。周辺には登山道が整備されていて、この地域の自然を楽しむための拠点となっている。山肌から白い噴煙が上がっているのを見ながら登山道に入ると、マルバシモツケに似た白い草花が出迎えてくれた。笹に覆われた階段状の木道を登り始めると、満開を過ぎたシャクナゲの花があちらこちらに咲いている。視界が開けると、右手奥に避難小屋が見えて酸ヶ平分岐になる。草原を渡る涼しい風が汗ばんだ体に心地よく、木道の下には可愛らしいミヤマキキョウが数輪咲いている。右手に曲がり、避難小屋の前を通り過ぎて、ザレた滑りやすい急坂を登り終えると、風が出てきて荒涼とした平原の登山道が続く。悪天候の時は迷いやすいので要注意だ。右手に吾妻小富士が見えてきて、夏アカネ(トンボ)の群れが舞い飛んでいる。このトンボは秋には麓に下りて行くという。火山石の穏やかな道を進み、1949mの一切経山山頂に到着。この名の由来は、この地に空海上人が一切経を埋めた、等の諸説ある。風が強く、天気あまり良くないので東北の山々は見えないが、眼下に青く澄んだ五色沼を見下ろし、吾妻小富士の火口周遊路がはっきりと見えた。ガレ場の石車に足を取られないように下山には注意しながら往路を戻る。湿原の広がる酸ヶ平方面の草原が美しい。時間があれば東吾妻山まで足を延ばしたいと思いながら下り、人も車も少なくなった駐車場に無事到着。再び車に乗り、スカイラインを下って、特製の「馬刺し」が待っている民宿「松屋」へと向かった。これまで、磐梯吾妻スカイラインの浄土平を通過するたびに、“一度は登ってみたい。”と見上げていた悲願の一切経山。今回ようやく実現することができた。

記録：静岡北支部 宿島 勝子

2日目、7:30、猪苗代の民宿を家族に見送られて出発、吾妻山エリアの最高峰、西吾妻山を目指す。今回は、時間的に比較的短いルートで、天元台ロープウェイ、3本のリフトを乗り継ぎ、北望台からスタートする。8:45ロープウェイ駅に到着、10:00に登山開始である。石を階段状に敷き詰めた登山道を登ること30分、もしか展望台に到着。当日は曇りとガスとで、何が展望できるのか良くわからない。登山道の両脇にはモミジカラマツの群落が続いていた。10分程、木道を歩くと人形石と梵天岩の分岐である。ここから、草原のような池塘エリアの向こうに、なだらかで、どっしりとした西吾妻山の山容が望める。遥か遠くまで伸びている木道を歩く。ミヤマリンドウ、チングルマ(花が終わった綿毛)、ワタスゲなどを眺めながら歩くのは最高のひとときだ。水場を過ぎ

ると、大きな岩がゴロゴロした急登が始まる。30分程で、巨岩が並ぶ梵天岩へ(昼食)。ここから比較的なだらかな登山道で、12:30、山頂に着いた。山頂は、展望のない狭いエリア、記念撮影をして早々に避難小屋経由で下山する。一般に、高山はピークから眺める素晴らしい展望と其の達成感が魅力だが、この山はピークまでのアプローチが素晴らしい。帰路は人形石経由、リフト乗り場まで3時間を要した。登山靴のトラブルなどで、長めの休憩を取ったせいだろう。深田久弥の百名山では、“吾妻山”となっているが、一切経山、東吾妻山など広大なエリア全体を指しているものと思われる。池塘を含む、緑に満ちた優しい山容で、豊富な高山植物が魅力である。この日の宿泊は、会津若松市の東山温泉。3日目は、11:00まで、鶴ヶ城、白虎隊で有名な飯盛山など会津若松市を観光して静岡への帰路に着いた。

天候：曇り時々晴れ

地図：吾妻山

コースタイム：静岡駅 500＝浄土平駐車場 1300-20…酸ヶ平避難小屋 1405…一切経山頂 1445-1500…避難小屋 1535…浄土平駐車場 1615-30…猪苗代民宿(泊)1725-730…天元台ロープウェイ駅 845-900…リフト終点 950-1000…かもしか展望台 1030…梵天岩(昼食)1140-1200…西吾妻山頂 1230…避難小屋 1245…天狗岩 1305…梵天岩 1317…人形石分岐1422…人形石 1435-50…リフト乗り場 1530…天元台ロープウェイ駅 1620-30…会津若松市東山温泉(泊)1810-830＝会津若松市観光 1100＝静岡駅 1720

記録：静岡北支部 吉岡 道雄

